



2009 年度

エコアクション21 環境活動レポート



(株)東洋精機製作所 東京工場

発行日:2010年7月14日



第1章 環境方針

認証・登録番号： 0000165

(05年4月取得)

基本理念

当社は、地球環境問題が人類共通の重要課題との認識のもとに、全社をあげて環境との共生・調和に配慮した事業活動を自主的・積極的に推進し、環境負荷削減に向けて継続的改善に努めます。

地域の発展に協力して、地域社会との共生を図ります。また良き企業市民として社会貢献活動を行います。

環境活動指針

当社は、材料試験機・測定機器の設計・製造・修理などの事業活動を展開する中で、環境に対する「基本理念」を達成するために、一人ひとりが法を遵守し、モチベーションを高め、実行性のある環境マネジメント活動を実践致します。

1. 製品の環境負荷の低減化をより一層取り組みます。
2. 電気の使用効率を高め省エネルギーに取り組みます
3. 廃棄物の減量化及び分別・リサイクル率の向上に取り組みます。
4. 容器・包装材削減に取り組みます。
5. 節水に取り組みます。
6. グリーン購入に取り組みます。
7. 環境活動レポートを公表し、各階層との環境コミュニケーションを深めることに取り組みます。



(1) 事業者名及び代表者名

(株)東洋精機製作所 東京工場 (1988年 竣工)
代表取締役社長 秋山 秀雄

(2) 所在地 : 〒115-0051 東京都北区浮間 5-4-23

(3) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

事業責任者	: 常務取締役	福田 茂	} 舟渡 隼 -センター-常駐勤務
環境管理責任者	: 品質保証室	白井 和博	
環境管理責任者補佐	: "	白川 正貴	
事務局	: "	溝口 義浩	

連絡先 : TEL 03-5915-5013 舟渡 隼 -センター-
FAX 03-5915-5014 舟渡 隼 -センター-

(4) 事業内容 : 材料評価試験装置の開発・設計・製造・修理

(5) 事業規模:

[従業員数] : 81人
[工場延べ床面積] : 2562m²

第2章 環境負荷報告

環境負荷抽出結果報告

当社、東京工場における二酸化炭素排出量、廃棄物最終処分量、総排水量、及び資源(製品の原材料など)利用量の過去2年間の実績と09年度の結果は下記の通りである。

[表 - 1]

項目	単位	07年度	08年度	09年度	
総エネルギー投入量	購入電力	MJ	3,234,198	3,107,892	2,613,895
	化石燃料	MJ	177,669	145,436	94,449
物質使用量	資源投入量	t	41.0	38.0	30.0
水資源投入量	上水	m ³	1,700	1,408	1,315
温室効果ガス排出量	二酸化炭素	kg-CO ₂	145,0403.5	138,289	110,296
	メタン	kg-CO ₂	37.6	33.1	25.7
	一酸化二窒素	kg-CO ₂	530	285	313
総生産販売量	製品販売総重量	t	35.0	32.0	22.0
	容器・包装使用量	t	3.90	3.90	3.38
廃棄物量	最終処分量	t	33.6	36.4	16.7
総排水量	下水道使用量	m ³	1,700	1,408	1,315

総エネルギー投入量の化石燃料は、液化石油ガス(LPG)、ガソリン購入量のみ該当。
総物資投入量は、総製品販売量に廃棄物等総発生量(燃料外のガス、紙購入量、金属の切り粉など)を加算した値である。



容器・包装は、段ボール・エアパッキン・テープ等で、製品出荷時に使用するものである。
 廃棄物最終処分量は、リサイクル品(白上質紙・新聞紙・段ボール)、可燃ごみ、不燃ごみ、金属加工屑、顧客先から引き取った廃棄製品、廃油などを合計した値である。
 水資源投入量と総排水量は、同じとした。

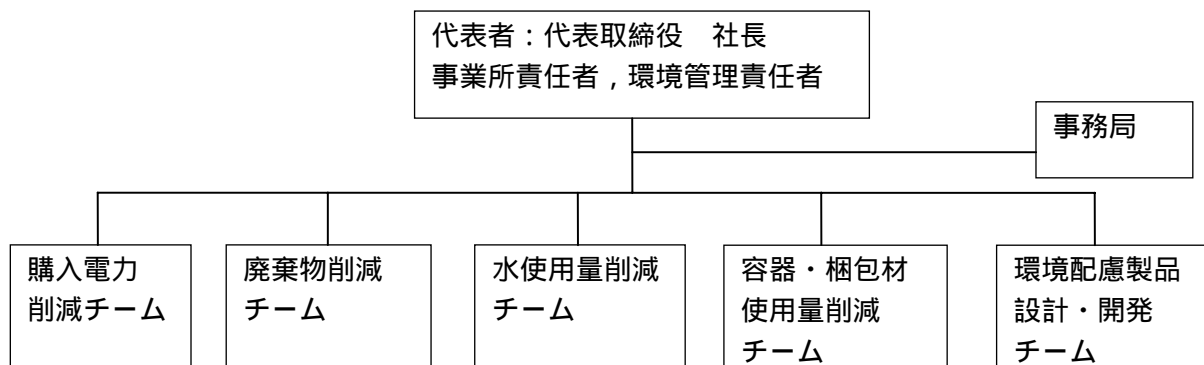
第3章 09年度の主要な環境活動と実績

3.1 活動実施体制

当社の環境方針【基本理念】に基づき、環境管理責任者・事業所責任者・EA21EMS事務局及びテーマ別活動取組チームが中心となって環境負荷削減活動を進めると共に、環境経営システムの定着と遵法及び継続的改善に取り組んだ。

(1) 組織体制

環境管理責任者及びEA21EMS事務局・テーマ別活動取組チームメンバーが中心となりシステムの構築及び活動の実践を展開する。



(2) 教育・訓練の実施

推進委員及び内部監査員への教育・訓練を適宜実施すると共に、全社員には機関紙として【エコアクション2.1】を発行し啓蒙すると共に、朝礼・会議などの場を活用し、環境管理責任者、事務局及び各活動チームリーダーが啓蒙・進捗度合いなどを説明した。

[表 - 2]

号数	発行日	主な内容	特集
Vol.16	09年4月16日	第2回更新審査報告	08年度の環境配慮製品
Vol.17	09年6月5日	クリーンアップ作戦報告・環境目標	08年度の環境配慮製品
Vol.18	10年4月21日	組織体制・ガイドライン改定のお知らせ	09年度の環境配慮製品

(3) 取組状況の確認と評価

各活動チームの1/4期毎の進捗度報告及び内部監査の実施により進捗確認を評価している。

(4) マネジメントレビュー

2010年6月の内部環境監査の結果を踏まえ、7月に役員会に準ずる「サンピ会」(全役員・部長の参加)において実施した。



(5) クリーンアップ作戦

環境活動では工場周辺地域とのコミュニケーションに努めなければならない。

よって、年1回にクリーンアップ(ごみ拾い)作戦を有志で実施した。

直近の実施日：2010年6月4日(金) PM5:15～ 有志参加者 55名

地域の環境美化をする事による地域社会への貢献は環境活動の第一歩とも言うべき環境保全活動と考え今後も続けていく予定である。



(6) エコアクション 21 普及セミナー活動

EA21 地域事務局 東京中央の要請を受け、当社の EA21 における取組を発表した。

	日時	会場	主な内容	発表者
EA21 導入セミナー発表	11/5	京橋プラザ 区民館	我が社のエコアクション 21	事務局 溝口
EA21 ガイドライン説明会	12/22	さいたま新都心	環境負荷低減についての活動 について発表	"

(7) 環境活動意識向上勉強会

日時：2009年7月1日(水)

場所：舟渡ホールセンター 食堂

内容：第1部 EA 2 1 の取り組みについて

講習会「持続可能な社会のために～エコアクションで地球市民になろう」

EA21 の今後の取り組みと課題について

第2部 課外学習(任意参加) DVD 上映

DVD「不都合な真実(元米国副大統領 アルゴア)文部科学省特選作品(約96分)





3.2 各活動チームの09年度の実績

東京工場の環境目標を達成するために、事業所責任者及び環境管理責任者の元、実質的な活動として目標項目毎に「活動取組チーム」を編成し、1/4期毎に活動内容のP.D.C.A進捗管理を行い、年度末に活動結果と評価をまとめている。

各チームの主要取組内容は以下の通りである。

(1) 購入電力削減チーム

年度活動計画	具体的展開	進捗確認	成果
空調管理： 必要以上の暖め過ぎ・冷やし過ぎが無いようにエアコンの調節を行い、不要な場所、不要な時期（4～5月・10～11月）は電源OFF	6～9月（夏季）：27 ±2 ・12～3月（冬季）：19 ±2 を目安に必要な以上の暖め過ぎ・冷やし過ぎが無いように各フロアの管理担当者が空調管理を行う。	夏季：クールビズ 冬季：加湿器の補助による保温を実施	
照明管理：休憩時間の消灯及び不就業場所の消灯	昼休み時間の消灯及び不就業場所の消灯。工作上必要な人は、消灯後自分で点灯SWを入れること	昼休み時間の消灯確認 蛍光灯の削減	
待機電源の削減：IT関連機器の削減。加工機・製品不使用の節電	就業後の不使用PCの電源OFF。加工作業・製品検査で長時間持ち場を離れる場合、加工機、製品の機能を損なわない範囲でその電源を切る	就業後の終夜運転機以外の停止確認	
共同施設・設備の電源管理トイレ・エントランス・食堂 コンプレッサー・サイクル変換機	トイレ・エントランス・食堂・会議室は最終使用者が照明・エアコンの電源を切る。コンプレッサー・サイクル変換機の管理は手順書を定め、機械室扉に掲示する。	各所消灯・就業後の機械室電源OFF確認	

(2) 廃棄物削減チーム

年度活動計画	具体的展開	進捗確認	成果
各フロアのごみ廃棄量の記録を取り、月の集計を掲示して目標達成の意識付けを図る。	エントランスの「はかり」を使用し、ごみ搬出者に重量を記録してもらい、週末に確認するとともに月末に集計し、排出状況を毎月掲示する。	ごみ捨て担当者に適切なシールを貼るように指導 ごみ出しの手順書ポスターの掲示	
資源ごみを一般廃棄ごみで出さない様に分別監視し、リサイクル対象品と廃棄物の分別の徹底を図る。	一般廃棄ごみの分別を確認し、資源ごみは資源回収用箱に入れさせるように取組む。	機密書類を管理部に送る 技術部統合により分別ルールを決めた。	
資源ごみ（ダンボール・コピー用紙・新聞・カタログなど）の回収業者に引き取ってもらい重量を測定する。	ダンボール収納箱が一杯になったら管理部に連絡し回収業者を呼ぶ。設定した分類別に重量を測定し記録する。	年11回業者に引き取ってもらい重量を測定し記録した。	



年度活動計画	具体的展開	進捗確認	成果
リサイクルの種類を増やしごみを減量する。	リサイクルできるものをピックアップし回収のルールを作成する。	廃棄図面を機密文書扱い(リサイクル処理品)に変更 インクジェットカートリッジの回収箱の設置	
コピー用紙の裏面利用の徹底	資源ごみ回収日の案内時にメールを出す。	年9回	
産業廃棄物の処理を適切に行う。	4半期ごとにマニフェスト票と管理票を確認する。産業廃棄物顧客引取品管理簿で排出内容と重量を記録する。	適切に確認し記録している。	

(3) 水使用量削減及び容器・梱包材使用量削減チーム

年度活動計画	具体的展開	進捗確認	成果
節水コマの保全	取り付け物に対する保全を行う。4半期ごとに節水コマを取り付けた蛇口をハンドルの開度を約90度にして水を出し、その後すぐにハンドルを閉じ、水が漏れていないか記録する。	メータをチェックし、パソコンに記録する。	
器具のチェック	水漏れがないか各器具をチェックし、必要であれば改善を図る。	水漏れ箇所はなし	
垂れ流しの防止	水道の垂れ流しの防止を徹底する。ポスターにて「節水」の啓蒙を行う。	特に活動なし	
水使用製品の節水	技術部に水を使用する製品ごとに管理手順書を作成させ、節水を心がけさせる。	特になし	
毎月、水道栓のメータを記録し、漏れがないか点検する。その際問題があった時は点検	毎月の記録を記入し、問題があった時は原因究明及び適宜チェックを実施する。	メータをチェックし、パソコンに記録する。	

(4) 水使用量削減及び容器・梱包材使用量削減チーム

年度活動計画	具体的展開	進捗確認	成果
梱包材の使用量の確認	梱包材の購入量の把握を購入伝票から算出する。	購入伝票をチェックし、パソコンに記録する。	
外部より持ち込まれる製品・部品に関して通い箱の奨励を図る。	通い箱変更できる購入品、定期荷物は段ボールから変更させる。	啓蒙活動は行ったが、特段変更はなかった。	
梱包材のリサイクルの徹底	ポスターにて「梱包材のリサイクル」を徹底させる。	ポスターの変更は試みなかった。	





(5) 環境配慮製品チーム

年度活動計画	具体的展開	進捗管理	成果
各開発・設計にて環境配慮項目に該当するポイントを集計する。	削減率によりポイント設定と製品群の重み付けを考慮した「環境負荷ポイント計算表」を作成し、それぞれの開発・設計にてポイント付けを行う。	具体的展開であげた3機種のほか新たに3機種の製品が構想時ポイントとして浮上	
2機種以上の環境配慮製品を計画し、トータル150ポイント以上を目標とする。	下記の開発製品3機種を重要開発配慮製品と位置づける。 1. 摩擦角測定機 2. 簡易操作型メルトインデックサ 3. 新型ストログラフE	具体的展開 1. のみのポイント獲得	

ここで、09年度ポイントを獲得した摩擦角測定機に関して説明する。ポイントの内容は[表-3]の通りである。

カタログ No.557 摩擦測定機 AN-S2

 旧製品	<p>傾斜法によりプラスチック、フィルム、紙、ゴム、ガラス、繊維などの静摩擦係数を測定する。省スペース、コンパクト！卓上式でスペースを取らない。 重量削減：当社比約60%削減、 28kg 12kg 容積削減：49,500cm³ 30,800cm³ (約40%削減)</p>	 新製品
---	--	---

[表-3]

削減項目	削減率/点数	製品群の重み	構想時ポイント	完了時ポイント	削減内容の説明
電力量削減	削減%によって点数がつけられる。削減率が高いと点数も高くなる。最低1点、最高21点				
水使用量削減					
熱排出削減					
重量削減		3	63	63	28kg 8kg (目標:-70%) 28kg 12kg (結果:-57%)
容積削減		3	9	21	49,500cm ³ 30,800cm ³ (約40%削減)
媒体削減					
試料削減					
騒音削減					
排出ガス削減					
グリーン調達					
		合計	72	84	



環境配慮製品の取組の説明

技術部が作成した設計者の心得とチェック表に心得には次のように書かれてある。

心得：試験機も環境対応がセールスポイント，設計に反映せよ！

地球温暖化対策，環境に優しい製品設計を 5 ポイント以上反映せよ。

また点検項目には「環境対応で 5 ポイント以上確保したか？」と書かれてあり，設計者は環境のことも考慮した設計を余儀なくされる。この用紙は常時技術部が設計を行う CAD（コンピュータ支援による設計）の場所に立てかけられている。また，その裏面には環境配慮製品の環境負荷低減項目とポイント計算表が記載され削減項目が 10 種類挙げられている。

削減率 従来製品（無い場合は，他社同等製品）に対する削減割合（%）を意味する。

製品群の重みとは：A,B,C の重み付けを行う。

A クラス（点数×3）＝当社主力製品 26 製品

B クラス（×2）＝総合カタログ製品（A クラス除く）

C クラス（×1）＝A，B クラス以外の製品

第 4 章 環境目標の設定

「購入電力削減」「廃棄物削減」「水使用量削減」「容器・梱包材使用量削減」の活動及び「環境配慮製品の開発・設計」は[表 - 4]の 09 年度実績値欄に記載してある。

[表 - 4]

目標項目		10 年度目標	09 年度実績値	達成率
1. 購入電力削減	削減率	1%(09 年度比)	08 年度比	19.2%削減 (08 年度総量 347,580kWh)
	削減量	2,659kWh	50,254kWh	
	総電力量	265,251 kWh	265,910kWh	
2. 廃棄物削減 (一般廃棄物のみ)	削減率	1%(09 年度比)	06 年度比	10.6%減量 (06 年度総量で 3,438kg)
	削減量	28kg	336kg	
	総排出量	32803kg	3,503kg	
3. 水使用量削減	削減率	1%(09 年度比)	06 年度比	5.6%減量 (08 年度総量 1,408 m ³)
	削減量	13m ³	93m ³	
	総排水量	1,302 m ³	1,394m ³	
4. 容器・梱包材使用量削減	削減率	1%(09 年度比)	06 年度比	17.3%減量 (06 年度総量で 3,800kg)
	削減量	34kg	708kg	
	総使用量	3,350kg	3,384kg	
5. 環境配慮製品開発・設計	全体評価	総トータル数で 150 ポイント達成	84 ポイント達成	56%達成 (目標 150 ポイント)
	個別機種評価	環境配慮製品を 3 機種	1 機種	33%達成 (目標 3 機種)

リーマンショック以降の景気低下による売上の減少による影響かもしれないが，各チームとも目標から大幅に減少することができた。各チームの年度末評価と事業所責任者のコメントを記す。

[表 - 5]

	チームの年度末評価	事業所責任者の評価
購入電力削減	全体的に 19.2%減。仕事量によりますが全体を通じて大幅減に。日常の電力削減が全体的に浸透されつつあります。来年度より一層管理を徹底し，電力削減に取り組んで	全体的に取組の評価は出来るが一部社員に節電の大切さが理解できていない人がいてかなり消費しているのが残念である。厳冬とはいえ 2 月の最大需用電力



	生きたい。	166kW, 3月の165kWは管理の甘さを感じる。
廃棄物削減	廃棄物量が例年より少なく、目標値より336kg(89.4%)クリアすることが出来ました。また技術部が一つの事業所に統合により購入品選定カタログなど設置数が半分となりカタログ改訂時(入替時)に排出される処分量も減少されると思われる。	取組が習慣となり、整然と日々活動されてきた。廃棄物を出さない活動を一層強化すること。
水使用量削減	2009年度の水使用量は1315m ³ で目標を達成し、2008年度から5.6%の削減となった。これは徐々に社内に節水の心がけが浸透してきた成果であると思われる。	地道な活動に成果が出ている。これからも節水(数字を下げる)は厳しいですが引き続き活動を行うこと。
容器・梱包材使用量削減	梱包材の使用量が昨年度比17%減である。売上の減少 梱包材購入の的を絞って購入した成果だと考えられる。	活動計画3項目(使用量の把握, 通い箱の奨励, 梱包材リサイクルの徹底)の実践の成果が出てきたと思います。全員の展開を進めること。
環境配慮製品	開発完了が遅れたために1機種のみで84ポイントの結果。達成率56%。開発の遅れを改善するとともに今後は数でも貢献していきたい。	エコ製品の創製を第一に頑張ること。

2010年度以降の環境目標の設定と展開について

- (1) 2010年度以降の「環境目標」は、「環境負荷への自己チェックリスト」・「環境への自己チェックリスト」より重点管理項目を抽出すると共に、09年度の実績値(または他の年度の実績値)を基にして、環境配慮製品以外は項目毎に一定割合を毎年削減していく。不況による売上げ激減の中、各チームとも目標より大幅に下がったことにより、今年度の目標設定は削減率を一律1%とし、状況確認を行い、ウオッチしていくことを4月の会議の中で決定した。
- (2) 環境配慮製品は当社の環境へのアピールポイントとして環境削減負荷低減目標を定め、ポイント制を継続し、今期も活動の定着を目指す。
- (3) 環境関連法令による規制の遵守を徹底するために、「環境法規制等要求事項一覧及び遵守評価表」を作成し、適宜確認を行う。

第5章 環境関連法規への違反・訴訟などの有無

5.1 「環境法規制要求事項一覧及び遵守評価表」による自己チェック結果

当社が該当する、「環境基本法」から「労働安全衛生法」までの16法令の要求事項に関して、2010年3月31日にEMS事務局によりチェックを実施し、抵触する事項は0件であり、早急な改善を要する事項も0件でありました。また、緊急事態の発生も今年度は0件でありました。2010年度6月末までに東京都知事宛に廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の3第6項の規に基づき「産業廃棄物管理票交付等状況報告書」を提出しました。

5.2 関連機関等からの外部チェック結果

当社が該当する、省資源と廃棄物、省エネと気候変動、自然保護等の各法規制等に抵触する旨の指摘及び訴訟は、関係機関等から1件もありませんでした。

尚、当社はトップダウンにより、遵法精神に基づく環境経営活動及び企業活動を全従業員に強く意識付けています。



第6章 その他

6.1 認証・登録事業所拡大計画

板橋区に当社の舟渡サポートセンターがあり（写真右），その事業所も 2010 年 7 月にはエコアクション 21 事業所として認証・登録を目指し，現在全力をあげて準備を行っております。



当社の活動組織強化スケジュール

- 2010 年 7 月 認証取得予定 東京工場 舟渡 SC（中間審査）...東京工場と同内容
 - 2012 年 7 月 " 本社 CS センター（中間審査）...10 年 4 月より準備スタート
- 〔活動内容〕 舟渡 SC は東京工場と同じ活動（環境配慮製品開発・設計の活動はなし）
 , 本社 CS センター，両支店は廃棄物・購入電力・水・容器削減活動及び輸送関係（車からの CO₂ 排出削減）

6.2 東京工場 環境保全活動

東京工場 09 年度の環境保全活動を図で示す（数値は 09 年度実績）。

